

[南三陸町 水産基盤施設緊急復興事業]
「震災後に宮城県内で初めて完成したカキ処理場」
仮設カキ処理場が完成し、落成式が執り行われました

10月4日、公益財団法人ヤマト福祉財団（本部：東京都中央区、理事長：有富慶二、以下：ヤマト福祉財団）「東日本大震災生活・産業基盤復興再生募金」の第1次助成先の一つ南三陸町（宮城県）が、水産業基盤施設緊急復興事業（助成金3億4,700万円）において宮城県漁業協同組合志津川支所に建設中であった「仮設カキ処理場」が完成し、落成式が執り行われました。

南三陸町は宮城県一の漁獲量を誇る秋サケやアワビの産地ですが、志津川湾内ではワカメ、ホタテ、カキなどの養殖が盛んで、海岸沿いの魚市場、作業場、加工場は活気に満ちていました。しかし、そのすべてが震災に奪い去られました。南三陸町と漁業組合は「仕事を失った漁師や地元住民のため、一刻も早く水産施設を復旧させたい」と努めてきましたが、事業費用は重い負担となっていました。そこで本助成を活かし、昨年10月に仮設市場を、今年5月に仮設ワカメ作業所を、そして10月に「仮設カキ処理場」を完成させました。

この仮設カキ処理場は、被災した志津川地区と戸倉地区に各3カ所、計6カ所あったカキ処理場を1カ所に集約して再建、殻カキ処理穴60個を備えています。地下のパイプを通して仮設カキ処理場に海水を送る「塩水取水塔」も復旧し、課題であった衛生管理のもとでのカキむき作業がようやく可能となりました。

佐々木憲雄運営委員長は「回復した海で大きく育ったカキを、一刻も早く全国の消費者に届けられるように頑張ります」と挨拶しました。



完成したカキ処理場
(鉄骨平屋建て508㎡、敷地3,069㎡)



テープカットを行う有富理事長(右から2番目)



冷蔵庫やカキむきの作業施設が完備している作業場



落成式で町の復興を祈願する有富理事長



塩水取水塔も復旧